

山岡光広・小西喜代次・安井直明議員が一般質問

山岡光広議員



◆介護保険制度の充実◆介護激励金の拡充◆医療的ケアが必要な子ども対応◆医療的ケアが必要な子どもの通学保障◆通学路の安全対策、特に歩道設置と市道陥没の緊急対応について

問 介護保険の特に要支援を地域支援事業に移行にあたって「猶予期間」を有効に。
健康福祉部長 最大限使って検討したい。
問 チェックシートだけでなく、要介護申請があった場合は必ず審査すべき。
健康福祉部長 適切に処理する。

問 特養入所は何人か。待機者はどうか。
健康福祉部長 要介護1が30名、2が42名、3が101名、4月126名、5が120名。待機者は現在384名で、要介護1が65名、2が86名、3以上が233名。待機者の実態は把握していない。
問 今後「原則要介護3以上」が特養入所となるが要介護1・2から申請があった場合は市から施設に意見表明する。それだけに待機状況を把握するべきではないか。
健康福祉部長 制度改正以降は、把握が必要だと考えている。

問 介護激励金支給対象者、拡充すべき。
健康福祉部長 認知症対応として平成25年から特別加算金を支給している。
問 医療的ケアが必要な子どもの実態は。アレルギー除去食に対する対策は。看護師の増員が必要ではないか。
健康福祉部長 アレルギーのある園児は117人、うちエビ・パンを預かっているのは5人、内服薬は2人。看護師については国や県に要望している。

小西喜代次議員



◆地方創生法と本市への影響◆信楽高原鉄道運行再開、市の役割と課題◆国道307号バイパス開通にむけての課題◆雲井小学校のグランド拡張の早期実現を求める

問 信楽高原鉄道の経営改善への市として今後の課題はなにか。今後新駅設置など新しい事業展開の検討はどうか。また、コミバスでの80歳以上の無料制度を市の事業として信楽高原鉄道でも実施してはどうか。
副市長 市内企業へのエコ通勤の推進や、市が関わるイベントや会議などに信楽地域での開催を企画するなど、利用の仕組みづくりを積極的に進めていく。新駅設置は、まずは観光誘客に努力した上で検討。

問 信楽の国道307号バイパス計画の現在の課題はなにか。住民への説明が必要ではないか。また、開通のめどはいつか。
建設部長 課題は長野バイパスの優先区間における関係機関との設計協議や用地の境界確認、公図訂正である。
説明会は開催予定。開通のめどは、長野バイパスは平成27年度工事着手、10年後の開始と聞いている。

問 学校のグランド改修のような大規模改修の計画はあるのか。雲井小学校のグランド改修要望への対応は。雲井小学校規模のグランドは何校か。
教育長 大規模改修は、年次計画で取り組んでいる。改修は安全優先で行っている。雲井小学校を後回しにしているわけではない。同規模グランドは4校ある。

安井直明議員



◆国の悪政のなか市民の暮らしと新年度予算を問う◆市が管理する公共用地の利活用について◆地域市民センター等の今後について◆旧東海道の松並木の管理と松枯れ等に対する効果的な予防対策は。

問 同和・人権予算の更なる見直しを。
副市長 26年度6千4百万円減額した。新年度も精査し見直す。
問 今は、中小零細企業の育成が大切、大きな企業の固定資産税減免はやめよ。
市長 雇用増を期待。廃止しない。

問 新年度に向け、住宅リフォーム制度の実施をせよ。
産業経済部長 実績を踏まえ検討する。

問 小・中学校にエアコン設置を。
教育部長 新年度、実施は考えていないが、室温調査は引続きする。

問 通行止岩上橋、早急に復旧工事を。
建設部長 検討の結果、新年度、国の交付金の活用により、工事を実施する方針。
問 市の保有する土地は、土地台帳が整備。今後売却予定地の総金額はどうか。
総務部長 約2億3千万円である。

問 地域市民センターの今後と、人的配置を見直す考えは。
市長 当面は現在の配置を維持する。

問 大原市民センターの整備方針は。
総務部長 位置、規模など検討中。方針案がまとまれば意見を聞く場を設ける。

問 旧東海道の松並木の管理と松枯れの現状等の効果的な予防対策は。
建設部長 水口で8本、土山で3本枯れている。薬剤樹幹注入など対策に努める。



政府に直接改善を求める

切実な要求を政府に直接迫る日本共産党滋賀県地方議員団の対政府交渉が11月20日行われました。要望は、びわ湖の異常な水草繁茂や特別支援学校のマンモス化解消、医療的ケアの子ども通学保障、雇用促進住宅の存続、森林施業促進のための境界確定対策など6省15項目。

県民の切実な要求の実現を求め上京し、政府と交渉する日本共産党地方議員団